

Y01b

ユニバース-科学技術館における新しい型の科学シアター

伊藤哲也、小浪尊宏、高弊俊之、丸山義巨、成見哲（東京大学）、戎崎俊一（理化学研究所）、
滝口盛行、宮坂純、皆川敏一、奥野光、山田英徳（科学技術振興財団）

ユニバースは、北の丸公園内にある科学技術館4階にあるサイエンスシアターである。平成7年度に行なわれた科学技術館の改修計画の一環として作られた。その主な特徴は、時差を利用した望遠鏡の遠隔操作による昼間のライブ観測、専用計算機によるリアルタイム銀河衝突シミュレーション、高性能グラフィックスワークステーションを使った三次元コンピュータグラフィックスである。これらを縦横に使った40分の天体ライブショーが毎週土曜の午後2回行われている。その進行はホストと呼ばれる天文学者が取り仕切る。ホストはできる限り観客とのやり取りの多いインタラクティブな進行と、三次元動画像を縦横に使って観客を飽きさせないよう心掛けている。ホストの他に学生アルバイトを中心とした助手二人がホストの要求にしたがって、コンピュータを操作する。

ユニバースライブショーの最も大きな特徴は、知識が十二分にある天文学の研究者自らがホストを勤めていることである。したがって、毎回何らかの意味で違う内容の話が飛び出す。また、カール・セーガン死亡の知らせが流れたときはコスモスや核の冬の話、火星に生物がいたかもしれないというNASAの発表の後には火星の話、とその時々ニュースに応じて話題を選んでいる。話術や見栄えの悪さは本物の迫力とリアルタイムCGのおもしろさで十分にカバーできる。ライブショーの全体構成や演出については、科学教育とビデオ制作で実績のあるイメージサイエンスに助言を得た。

ユニバースは始まってから1年を迎え、そろそろ内容の大幅な改訂が必要である。この活動に興味を持った学生が中心となって、木星系や太陽系の可視化CGや、西暦2000年代初頭には本格運用開始となる宇宙ステーションのウォークスルーソフトなどを開発中で、ライブショー中に試験的に運用を始めている。今秋には新しいソフトも全面公開が可能になるだろう。